

外為マンスリーレビューI 北米編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/12/03

「財政の崖」とFOMCが軸に

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	日米双方の政治情勢を睨んで	2 - 3
		予想レンジ: 79.10 ~ 84.20 円	
<u>カナダ/円</u>	➡	米「財政の崖」が最大の焦点	4 - 5
		予想レンジ: 78.50 ~ 86.50円	

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



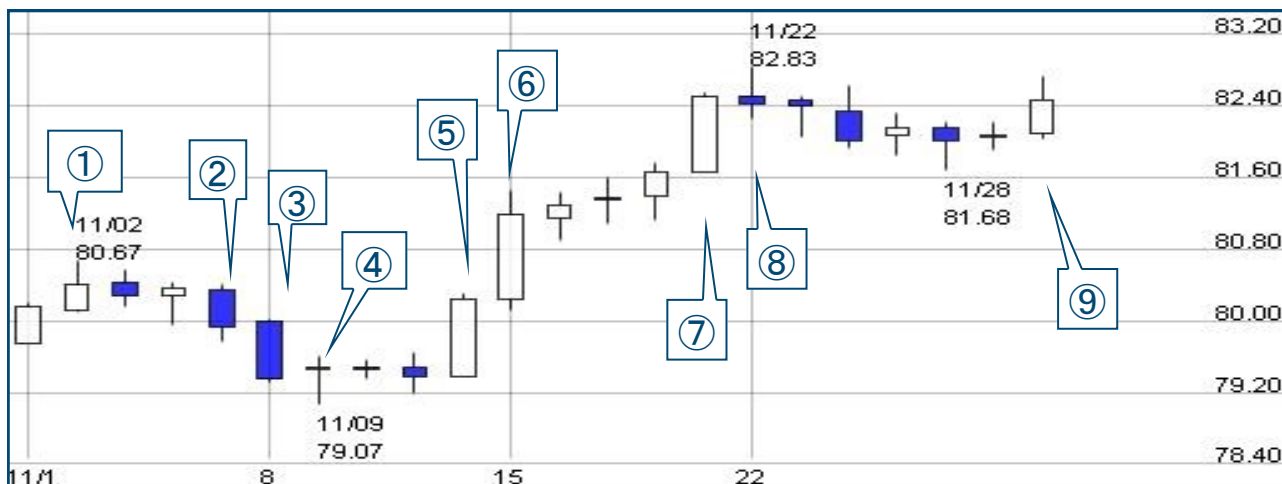
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD / JPY

ドル/円 11月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	79.75円	82.83円	79.07円	82.46円



①	2日、米10月雇用統計において失業率は市場予想通りの7.9%だったが、非農業部門雇用者数が17.1万人増と市場予想(12.5万人増)を上回った上、前月分も上方修正(11.4万人増→14.8万人増)だった。これを受けてドル/円は80.67円まで上昇した。
②	7日、米大統領選の開票中の東京市場で米長期金利が急低下するとドル/円は急落。ただ、オバマ米大統領の再選確実と伝えられると一転して上昇に転じた。もっとも、欧州市場中盤に欧州委員会がユーロ圏の成長率見通しを引き下げたことでリスクオフムードが強まると再び反落した。
③	8日、ロンドン16時(日本時間25時)のフィクシングに向けたドル売りが持ち込まれた上、米30年債入札が好調で米長期金利が低下したことを背景にドル/円は下落した。
④	9日、欧州連合(EU)当局者の「12日のユーロ圏財務相会合でギリシャへの次回支援が最終決定となる可能性は低い」との発言を受けリスクオフムードが強まるとドル/円は79.07円まで下落した。
⑤	14日、野田首相が党首討論で16日に衆議院を解散し、12月16日に選挙を行う意向を明らかにすると、「次期政権は自民政権で、そうなれば日銀はより積極的に金融緩和を行うよう、圧力を受けるだろう」との観測が拡がり、円安が進行。なお、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録では「多くのメンバーがツイストオペ終了後の追加資産購入を支持」などと記されていたが、反応は限られた。
⑥	15日、自民党の安倍総裁が「インフレ目標達成のために無制限に緩和すべき」「ゼロかマイナス金利にするくらい貸出を高めてもらいたい」などと述べたことを受けて円安が進んだ。
⑦	21日、日本の次期政権樹立後の金融緩和加速に対する思惑が強い中、本邦10月通関ベースの貿易赤字が5490億円と予想(3600億円)より弱い結果だったことを受け、断続的に円安が進んだ。
⑧	22日、前日からの円売りの流れを引き継いでドル/円は上昇し、82.83円と4月4日以来の高値を付けた。
⑨	30日、本邦企業による米企業買収目的のドル買い・円売りが出たとの噂が拡がると、ドル/円はストップを絡めながら上昇。一旦、本邦輸出企業によるドル売りで上げ幅を縮小する場面も見られたが、夕方にかけて再びドル買い優勢になると82.74円まで値を伸ばした。

USD / JPY

今月のポイント

11月のドル/円相場は79.07～82.83円のレンジで推移。月間の終値ベースでは3.3%の上昇(ドル高・円安)となった。この月は、月初に米11月雇用統計の好調な結果を受けてドル高・円安が進むもその後はジリジリと下落。しかし、日本の野田首相が衆議院解散と総選挙を示唆して以降は、市場では①自民党への政権交代と、②そうなった場合に日銀に対する金融緩和圧力が強まるだろうという期待から円売りが強まり、ドル/円は4月4日以来の高値82.83円を付けた。

12月のドル/円相場は日米双方の材料をみていく必要がある。

まず、日本では16日に衆議院選挙が行われる。「自民党政権になり、日銀に対してより強い金融緩和を押し進めるよう圧力をかけるだろう」との期待で11月にすでに上昇してきていることを考慮すると、実際に政権交代となった場合でも、一旦は材料消化感から円が買い戻される可能性がある。また、民主党が勝つこととなれば大きく円高が進むことも考えられる。

一方、米国については11～12日にかけて開催される米連邦公開市場委員会(FOMC)で年末までで終了するツイストオペに替わり導入されると目されている国債買い入れの規模や、足元では比較的楽観ムードが強い財政の崖問題の協議の行方が材料になってこよう。国債買い入れ規模が市場のコンセンサス(執筆時点ではだいたい月450億ドルと言われている)よりも大きかったり、財政の崖についての与野党協議が難航するようならドル/円には下向きの圧力が掛かると考えられる。もちろん逆もしかりだ。

ただ、12月はクリスマス休暇入りする市場参加者が次第に増えるため、クリスマスが近づくに連れて相場が薄くなる。これらの材料を踏まえながらも、年末を睨んだ大きめの注文で急に値が動くことがあり得ることも常に意識しておきたい。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 79.10～84.20円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

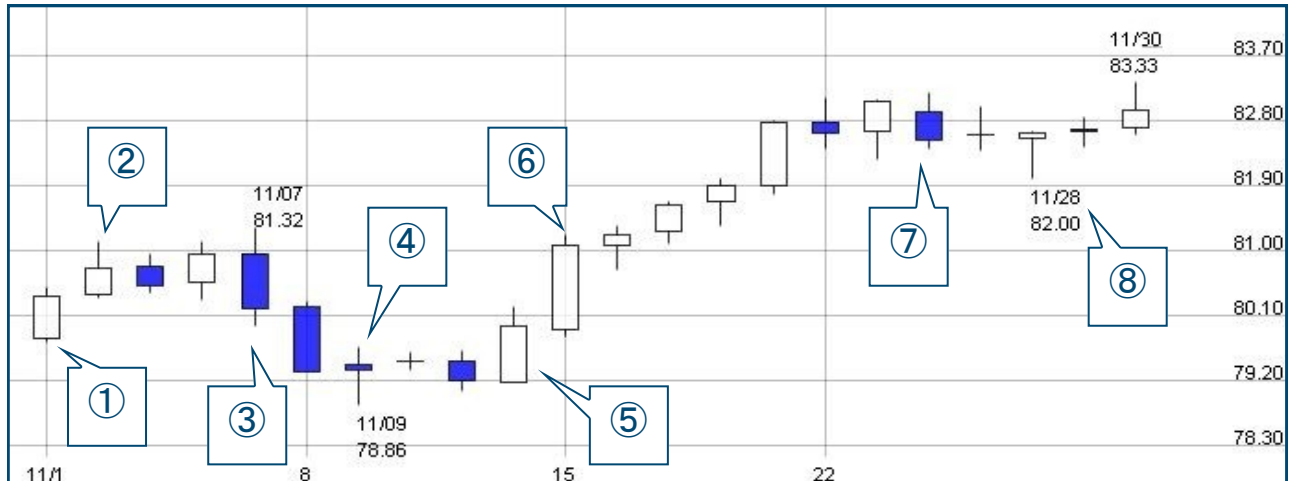
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
12/3(月)	11月米ISM製造業景況指数	12/17(月)	12月米ニューヨーク連銀製造業景況指数
12/5(水)	11月米ADP全国雇用者数	12/19(水)	11月日通関ベース貿易収支
	11月米ISM非製造業景況指数		11月米住宅着工件数
12/7(金)	11月米雇用統計	12/20(木)	日銀金融政策決定会合(19日～発表)
12/10(月)	第3四半期日GDP・二次速報		12月米フィラデルフィア連銀景況指数
	10月日経常収支	12/21(金)	日銀金融経済月報・基本的見解
	10月日貿易収支	12/26(水)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (11月19日・20日分)
12/11(火)	10月米貿易収支		10月米S&P/ケース・シラー住宅価格指数
12/12(水)	米FOMC政策金利発表		2月米リッチモンド連銀製造業指数
12/13(木)	11月米小売売上高	12/27(木)	12月米消費者信頼感指数
12/14(金)	日銀短観		11月米新築住宅販売件数
	11月米消費者物価指数	12/28(金)	11月日全国消費者物価指数
12/16(日)	日衆議院選挙		12月米シカゴ購買部協会景況指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

カナダ/円 11月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	79.78円	83.33円	78.86円	82.96円



- ① 1日、中国10月製造業PMIが景況感の分岐点とされる50を上回った事に加え、米10月ADP全国雇用者数、米新規失業保険申請件数、米10月ISM製造業景況指数がいずれも強い結果となった。これらを好感して欧米株が上昇すると、カナダ/円は80.49円まで上昇した。
- ② 2日、加10月雇用統計で、失業率は予想通りの7.4%、雇用者数ネット変化は0.18万人増と予想(1.00万人増)を下回るやや弱い結果となった。しかし、同時に発表された米10月雇用統計が、失業率こそ小幅に上昇したものの非農業部門雇用者数が予想を大きく上回った事を受けてドル/円が上昇するとカナダ/円も81.11円まで連れ高となった。
- ③ 7日、前日に行われた米大統領選でオバマ大統領の再選が決まった事から、大統領府と議会のねじれが継続するため「財政の崖」に対する懸念が強まるとNYダウ平均株価が一時360ドル超の大幅下落となった。世界景気の減速懸念から原油価格も84ドル台まで大幅に下落する中、リスク回避の動きが強まるとカナダ/円は79.96円まで値を下げた。
- ④ 9日、欧州連合(EU)の高官が、12日のユーロ圏財務相会合でギリシャへの次回融資について、最終決定する可能性は低いとの見解を示したことを受けて欧州株が下落すると、カナダ/円は78.86円の安値を付けた。
- ⑤ 14日、野田首相が党首討論で16日に衆議院を解散し、12月16日に総選挙を行う意向を明らかにした。これを受けて「政権交代で自民政権になれば、日銀はより金融緩和を積極的に行うよう圧力を受ける」との思惑が拡がり円売りが強まると、カナダ/円は80円台を回復した。
- ⑥ 15日、自民党の安倍総裁が「インフレ目標達成のために無制限に緩和していくべき」、「ゼロかマイナス金利にするぐらいにして貸し出しを高めてもらいたい」、「日銀と政策協調し大胆な金融緩和を行う」などと述べたことが報じられると、円売りが急激に強まり、カナダ/円は81円台まで上伸した。
- ⑦ 26日、ドル/円の上昇につれて83.20円の高値を付けたものの、その後は日経平均株価の失速を眺めて83円を割り込んだ。さらに、次期英中銀(BOE)総裁に現カナダ中銀(BOC)総裁のカーニー氏が就任すると伝わるとポンド高・カナダドル安が進行(カーニー氏はタカ派的との見方が強いため)。これにつれて対円でもカナダドルが下落し、82.42円まで一段安となった。
- ⑧ 28日、米10月新築住宅販売件数が予想を下回った事を嫌気してNYダウが100ドルを超える下げとなった事からカナダ/円は82.00円まで下落した。しかし、直後に米共和党のペイナー下院議長が「財政協議について楽観的」との見解を示し、さらにオバマ大統領からも「財政合意は数週間以内に成立する可能性」とのコメントが出されると株価は一気に上げ幅を拡大。カナダ/円は82.62円まで反発した。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

今月のポイント

11月のカナダ/円相場は78.86円～83.33円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約4.0%の上昇となった。11月は、米ドル/カナダドルが約0.5%の下落、ユーロ/カナダドルも約0.3%の下落と小幅なカナダドル高となっており、カナダ/円の上昇の大部分を円の下落が占めていた事がわかる。つまり、本邦自民党の安倍総裁発言により、政権交代後の日銀に対する金融緩和圧力が一段と強化されるとの思惑がカナダ/円相場を押し上げる原動力となったと言える。

12月についても、16日に本邦衆議院選挙が行われ自民党が第1党となる可能性が高い事から、円が売られやすい地合が続く可能性がある。衆院選直後の19-20日に行われる日銀金融政策決定会合にも注目が集まりそうだ。ただ、世界景気への影響の大きさという観点から考えると、本邦の選挙結果や日銀の金融緩和強化観測よりも米「財政の崖」問題の動向がより注目される事になりそうだ。米国では減税措置の失効（実質増税）と自動的な歳出削減が行われる「財政の崖」が年明けに迫っており、現段階で米連邦議会が「崖」を回避するための方策に合意できていない。この状態が年末まで続けば、米経済の「崖」からの転落が意識されて、市場はリスク回避の動きを強める事になり、カナダ/円の下落は避けられないだろう。年内になんらかの合意が形成できるか、米議会と大統領府の動向が注目される。

その他、カナダ中銀(BOC)は、主要先進国の中では唯一の引き締めスタンスを取っている中央銀行であり、4日の理事会でそのスタンスに変更がないかが注目されよう。(神田)

(予想レンジ: 78.50～86.50円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
12/3(月)	11月米ISM製造業景況指数	12/13(木)	11月米小売売上高
12/4(火)	加中銀政策金利発表	12/14(金)	日銀短観
12/5(水)	11月米ADP全国雇用者数		11月米鉱工業生産
	11月米ISM非製造業景況指数	12/16(日)	本邦衆議院選挙
12/6(木)	10月加住宅建設許可	12/19(水)	11月米住宅着工件数
	11月加Ivey購買部協会指数・季調済	12/20(木)	日銀金融政策決定会合(19日～)
12/7(金)	11月米雇用統計	12/21(金)	11月加消費者物価指数
	11月加雇用統計		11月加GDP
12/9(日)	11月中国消費者物価指数	12/24(月)	11月米耐久財受注
	11月中国鉱工業生産	12/27(木)	12月米消費者信頼感指数
12/10(月)	11月中国貿易収支		11月米新築住宅販売件数
	11月加住宅着工件数		
12/12(水)	米FOMC政策金利発表		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。